

# No.065

スーパーリサーチャー「イノっち」が  
大阪市24区を斬る

## 数字で見る経済

### 23 平野区



大阪産業創造館までの時間距離

平野区役所からの所要時間

実際に計測。地下鉄利用。  
電車の待ち時間を含む。

▶ 約40分

イノっちこと井上智之(いのうえ さとし)

1970年生まれA型。某シンクタンクで関西の産業振興に関する調査をしていたが、縁あって大阪都市経済調査会へ。俯瞰的な分析を徹底するクールさと「いつかは独立したい」というアツイ野心を併せ持つが、泥酔すると昭和歌謡で突然踊り出す奇怪な一面も。

## 都市農業ココにあり！？ ～農地面積、農家数がもっとも多い区～

平野区は工場数(2005年:1902、全市の11.2%※)が24区中2番目に多く、工業区のイメージがありますが、農地面積を見てみると、57ha(2000年)と24区中最大で、全市(195ha)の29.2%を占めており、農業活動が盛んなことがわかります※。

しかし、近年、市内の農地は住宅開発などにより減少傾向にあり、2000年から2005年にかけて、農地面積は市全体で22.1%減少(195ha⇒152ha)しました。住宅地図を用いて、平野区における農地の土地利用変化(2001年⇒2006年)を調べると、54区画の農地が住宅(23区画)や商工業施設(15区画)など別の用途へ変化しているので、同区においても農地面積は減少しているものと考えられます※。

一方、事業規模が中規模以上の「販売農家」数の推移(表:2000年⇒2005年)を見ると、平野区は31.6%減少(79戸⇒54戸)し、市全体の減少幅(-24.5%:249戸⇒188戸)を上回りましたが、依然として24区中最多で、都市住民に新鮮な野菜などを供給し続けています。

市内では、市民農園が1394区画(1区画20m<sup>2</sup>)整備されており、花や野菜づくりを楽しみたい人が農地を借りることができます。うち平野区内は446区画と24区中最大で、市全体の32.0%を占めています※。1000世帯あたりの区画数で見ても、5.2区画と鶴見区(9.3区画)に次いで

24区中2位です。このように平野区では、農家以外にも農作業を行う人々が大勢います。

農林水産省のアンケート調査によると、市民農園を利用した動機(複数回答)は「自分や家族の健康のため」(65.0%)、「安心できる農作物を栽培するため」(55.3%)などが多く、健康や食の安全性に対する関心の高さが伺えます※。

農地や農家の減少に歯止めがかからない状況ですが、上記のような農業に関心の高い都市住民の参加を促したり、農作物の安全性に関する情報を開示するなど、地域に密着した取組みにより、今後も市民に親しまれる産業として存続し続けることが期待されます。

【表】販売農家数 トップ5区(2000年～05年)

	2000年	2005年	変化率(%)
1. 平野区	79	54	-31.6
2. 鶴見区	63	52	-17.5
3. 住吉区	45	37	-17.8
4. 東住吉区	24	16	-33.3
5. 東淀川区	19	11	-42.1
大阪市全体	249	188	-24.5

資料:大阪市「大阪市統計書」より作成  
注:販売農家とは、経営耕地面積3000m<sup>2</sup>以上または農作物販売額50万円以上の農家

※詳しい統計データとバックナンバーはこちらから ▶ <http://www.tyosakai.jp/toukei/number.html>